

# 新型コロナワクチン 緊急時対応マニュアル

## アレルギー症状への対応の手順

以下のアレルギー症状がある

### 全身の症状

- ・意識がない
- ・意識もうろう
- ・ぐったり
- ・尿や便を漏らす
- ・脈が触れにくい
- ・唇や爪が青白い

### 消化器の症状

- ・腹痛
- ・吐き気・おう吐
- ・下痢

### 顔面・目・口・鼻の症状

- ・顔面の腫れ
- ・目のかゆみや充血、まぶたの腫れ
- ・くしゃみ、鼻水、鼻づまり
- ・口の中の違和感、唇の腫れ

### 呼吸器の症状

- ・声がかすれる
- ・犬が吠えるような咳
- ・のどや胸が締め付けられる
- ・咳
- ・息がしにくい
- ・ゼーゼー、ヒューヒュー

### 皮膚の症状

- ・かゆみ
- ・じんま疹
- ・赤くなる

### 発見者が行うこと

- ①ワクチン接種者から目を離さない、ひとりにしない
- ②助けを呼び、人を集める
- ③アドレナリンシリンジと内服薬(➡ **C**)を持ってくるよう指示する

➡ **A**

### 緊急性が高いアレルギー症状はあるか?

5分以内に判断する ➡ **B**

注射部位以外の皮膚・粘膜症状のみ

**B-2B**

2つ以上ある **B-2A**

①ただちにアドレナリンシリンジを使用する ➡ **C-1**

②救急車を要請する(119番通報)

③その場で安静にさせる

救急車を待つ間、必要に応じて

- ①アドレナリンシリンジを5～15分毎に再投与する。
- ②酸素吸入、生理食塩水の投与、副腎皮質ステロイド薬の注射を行う。
- ③心肺蘇生を行う。

救急車到着後、ただちに医療機関へ搬送

ヒスタミンH1受容体拮抗薬(➡ **C-2**)の投与

安静にできる場所へ移動する

5分ごとに症状を観察する  
緊急性が高いアレルギー症状の出現には特に注意する

# A

## 医療機関内での役割分担

◆各々の役割分担を確認し事前にシミュレーションを行う

### 院長

- それぞれの役割の確認および指示
- アドレナリンシリンジの使用
- 心肺蘇生やAEDの使用

### 発見者「観察」

- ワクチン接種者から離れず観察
- 助けを呼び、人を集める

### 職員 A

- アドレナリンシリンジの準備
- AEDの準備
- 内服薬の準備
- アドレナリンシリンジの使用または介助
- 心肺蘇生やAEDの使用
- 救急車を要請する(119番通報)

### 職員 B

- 観察を開始した時刻を記録
- アドレナリンシリンジを使用した時刻を記録
- 内服薬を飲んだ時刻を記録
- 5分ごとに症状を記録

### ★救急要請(119番通報)で伝えるポイント★

「救急であること」

「住所」

「いつ、だれが、どうして、現在どのような状態なのか」

「通報者の氏名と連絡先」

※通報時に伝えた連絡先の電話は、常につながるようにしておく。

※救急隊が到着するまでの応急手当の方法などを必要に応じて聞いておく。

# B

# 緊急性の判断と対応

◆アレルギー症状があったら5分以内に判断する!

◆迷ったらアドレナリンシリンジを打つ! ただちに119番通報をする!

## B-1 緊急性が高いアレルギー症状

### 【気道・呼吸器症状】

- 喉頭閉塞感
- 呼吸困難
- 喘鳴
- 強い咳嗽
- 低酸素血症状

### 【消化器症状】

- 腹部疝痛
- 嘔吐
- 下痢

### 【循環器症状】

- 血圧低下
- 意識障害

### 【注射部位以外の皮膚・粘膜症状】

- 蕁麻疹
- 皮膚の発赤・紅潮
- 口唇・舌・口蓋垂の腫脹や刺激感
- 目のかゆみ・眼瞼腫脹
- くしゃみ・鼻汁・鼻のかゆみ・鼻閉等の鼻炎症状

2つ以上当てはまる場合

注射部位以外の皮膚・粘膜症状のみの場合

## B-2 A アナフィラキシーの診断

- ①ただちにアドレナリンシリンジを使用する!
- ②救急車を要請する(119番通報)
- ③その場で安静にさせる(下記の体位参照)

救急車を待つ間、必要に応じて

- ◆アドレナリンシリンジを5~15分毎に再投与する
- ◆酸素吸入、生理食塩水の投与、副腎皮質ステロイド薬の注射(⇒ **C-2**)を行う
- ◆心肺蘇生を行う

## B-2 B アレルギー反応への対応

ヒスタミンH1受容体拮抗薬  
(⇒ **C-2**)の投与

安静にできる場所へ移動する

5分ごとに症状を観察する  
緊急性の高いアレルギー症状の出現  
には特に注意する

## 安静を保つ体位

仰臥位が原則



血圧が低下している可能性があるため仰向けで足を15~30cm高くする

吐き気、嘔吐がある場合



嘔吐物による窒息を防ぐため、体と顔を横に向ける

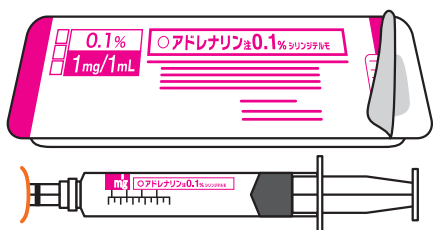
呼吸が苦しく仰向けになれない場合



呼吸を楽にするため、上半身を起こし後ろに寄りかからせる

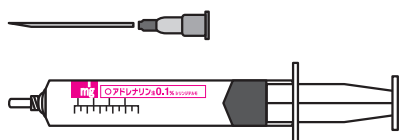
## C-1 それぞれの動作を声に出し、確認しながら行う

1



アドレナリン注0.1%シリンジ(以下アドレナリンシリンジ)を取り出す。

2

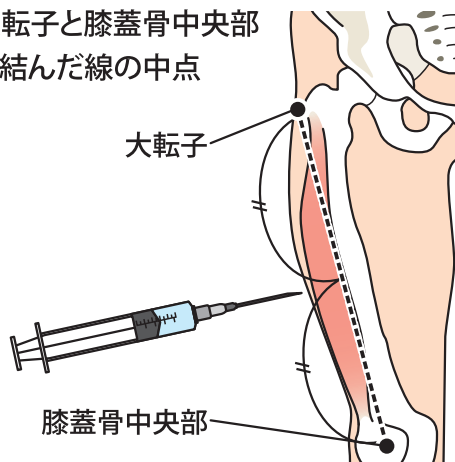


21-23Gの注射針をアドレナリンシリンジにつける。

3

【注射部位:大腿部中央の前外側】

大転子と膝蓋骨中央部を結んだ線の midpoint



大腿部中央の前外側にアドレナリンシリンジ(0.01mg/kg、最大0.5mg)を筋肉注射する。

大腿部中央の前外側に注射できない場合は、三角筋に注射する場合もある。

## C-2 アナフィラキシー対策として準備するもの

【必須】少なくとも以下の医薬品と医療備品を用意する。

- 血圧計、静脈路確保用品、輸液セット
- アドレナリン注射薬0.1% (2本以上)
  - ▶ ボスミン®注1mgまたはアドレナリン注0.1%シリンジ「テルモ」
  - ▶ 自己注射薬「エピペン®注射液0.3mg」でも可
- 生理食塩水20mL (5本以上) /500mL (2本以上)
- ヒスタミンH1受容体拮抗薬 (5錠以上)
  - ▶ PEG(マクロゴール)を含まないもの(例:ピラノア錠、ルパフィン錠、アレグラOD錠など)を推奨
- 副腎皮質ステロイド薬注射薬 (2本以上)
  - ▶ ヒドロコルチゾン(ハイドロコートン®、ソル・コーテフ®、サクジゾン®など)またはメチルプレドニゾロン(ソル・メドロール®、ソル・メルコート®など)
  - ▶ PEG、ポリソルベートを含むものは不可(例:デポ・メドロール®)

ハイリスク症例での接種の際は、左記に加えて標準的な救急カート、少なくとも以下の医薬品と医療備品を用意することが望ましい。

- パルスオキシメーター
- 酸素ボンベ(流量計と延長チューブ付き)、経鼻カニューレ・使い捨てフェイスマスク
- 挿管セット
- ヒスタミンH1受容体拮抗薬注射薬 (2本以上)
- 吸入短時間作用性 $\beta_2$ 刺激薬(pMDI)とスパーサー (2セット以上)
- グルカゴン( $\beta$ 遮断薬を投与中で、アドレナリンが無効の場合に使用)

## 【参考文献】

一般社団法人日本アレルギー学会「新型コロナウイルスワクチン接種にともなう重度の過敏症(アナフィラキシー等)の管理・診断・治療(令和3年3月12日改訂)」  
東京都健康安全研究センター 企画調整部健康危機管理情報課 発行「食物アレルギー緊急時対応マニュアル」(平成30年3月改定版)